

既設メーター後付けでスマート化

春日那珂川(企)らと実証実験

リンクジャパン「eMeter2」実用化へ



実証実験でのeMeter2の設置状況

IoTプラットフォーム事業を手がけるリンクジャパンは、春日那珂川水道企業団、グローバルソリューションズと、既設の水道メーターを交換することなく自動検針を実現するアタッチメント型のスマートメーター「eMeter2」の実証実験を4月に開始した。本体に内蔵する高精度カメラでメーターの文字盤を撮影し、その画像データをクラウドに転送し、独自の補正技術とAIによる画像解析で数値化する仕組みで、現在販

売している「eMeter」と比べ、LTE Cat.1通信方式を使用することによる通信の安定性の向上を図るとともに、設置方法の改良による防水性能の向上などを目指している。実用化に向けて、実証実験では検針精度や防水性能、通信性能の検証などを行う。

リンクジャパンが開発したeMeter2は、既設のメーターに後付けで簡単に設置できることが大きな特長で、設置時間は5〜10分程度、さらに水道を止める必要もな

く、低コストでスマート化をすることができるとも、通信方式はLTE Cat.1を導入し、NTTドコモとauが提供する既存の携帯電話基地局のネットワークを活用することで全国エリアをカバーして安定的な通信が可能となる。

電池駆動であることから、電源の確保を省くことができるのも大きなメリットで、週1回の通信で8年間利用できる。検針値も撮影した画像などの検針データは、一括管理ができ、関係業務の効率化・省力化につながる

ことができ、今後は各種請求システムとの連携も可能にするという。

実証実験では、春日那珂川水道企業団管内の一般家庭用の水道メーター3カ所にeMeter2を設置し、検針精度をほぼ8年間利用できる。検針値も撮影した画像などの検針データは、一括管理ができ、関係業務の効率化・省力化につながる

3者は2019年6月から20年3月の期間でeMeterの実証実験を行い、良好な結果が得られたことから、同企業団は20年4月から難検針地域の一部でeMeter

過去最高の受注残高を更新

メタウォーター 2022年3月期決算を公表

メタウォーターは4月27日、同グループの2022年3月期決算を公表した。受注高は大型案件の減少、複数年度のサービス契約一括更新による一過性要因がなくなり、1523億円(前期

比68億円減)と前期実績を下回ったが、国内の設計・調達・建設(EPC)事業や北米・欧州の海外子会社の業績が好調に推移したことにより、予想値を大幅に上回った。受注残高は1860

億円(同167億円増)と過去最高を更新した。売上高は海外子会社や国内の運転・維持管理(O&M)事業、メタウォーターサービスの業績が好調に推移したことなどから、1356億円(同22

億円増)となった。利益については、前期に計上した退職給付信託株式売却などの一過性要因がなくなったことなどにより、営業利益81億円(同27億円減)、経常利益88億円(同23億円減)、当期純利益62億円(同3億円減)と減益になった

が、経路は、前期に計上した退職給付信託株式売却などの一過性要因がなくなったことなどにより、営業利益81億円(同27億円減)、経常利益88億円(同23億円減)、当期純利益62億円(同3億円減)と減益になった

普及促進材料に

定例総会 年度のJIS制定へ



士会長

配水用ポリエチレンインフレーション協会(ポリテック)は4月22日、第29回理事会・定例総会を都内で開いた。議案は、2021年度の活動結

も、水道配水用ポリエチレン管の普及は非常に順調に進んでおり、会員各社のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼を申し上げます。2021年度の日

いるスクイズオフ工法の完成に向け、改良と汎用化を進め、ポリエチレン管の可能性を高め、事業運営に貢献していきたく

地方支部の技術講習会などにあわせて、これらの成果を広くPRする説明資料の整備などを進めていく。

ポリテックによると、12年ぶりの改訂となる日水協の指針には、铸铁管、鋼管と並びポリエチ

の検証の改訂を進める。日水協規格JWAWK144、145について

式セラ膜装置を受注

モザンビークに4台納入へ

メタウォーターは、モザンビーク共和国における国内避難民の給水・衛生状況の改善を目的とする日本の政府開発援助(ODA)の無償資金協力案件として、

長い実績が証明する